
やっぱり.....。

工藤新一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やっぱり……。

【Nコード】

N2085B

【作者名】

工藤新一

【あらすじ】

ある日、服部、和葉、蘭、俺で旅行する事になった。しかしその旅行でついに、コナンの正体が蘭に……………。

プロローグ

蘭

「やっぱりコナン君って……………新いなんじゃ……………」

蘭はコナンの何処か小学生とは違う雰囲気は薄々感付いていた。

ある日、コナンの携帯に大阪の服部平次から電話が来た。その内容は、服部と和葉と蘭と俺で旅行に行かないか。という内容だった。ちょうど今は夏休み期間で小学校も高校も休みだったのだ。

俺達は蘭の部活が休みの金曜日に出掛ける事にした……。

第1話

その日はとても暑く小五郎の仕事も珍しくなく暇な日だった。
俺と蘭はテレビを見ながら時を過ごしていた。

蘭

「あつ、コナン君！そっいえば今年海行ってないねえ」

コナン

「そうだねえ。おじさんの仕事が忙しかったから出掛ける暇なかったもんね。」蘭

「そうだ！コナン君、博士に何処か連れてってもらったら？」

コナン

「蘭姉ちゃんは行かないの？」

蘭は残念そうに、

「私は部活あるし、お父さんも心配だから行かないのわ。」

コナン

「そっか。」

と、その時コナンの携帯が鳴った。

コナン

「僕ちよつと電話出てくるね。」

と、コナンは自分の部屋に入ってしまった。

*****コナンの部屋

コナン

「はい、もしもし。」

??

「おう！工藤かあ？！俺や！服部平次や！元気しとったか？」

コナン

「なんだ、服部かよ。」

で、今日は何の用だよ？」

平次

「なんだとはなんや？！まあええわ！今夏休みやる！？せやから俺と和葉と工藤とあの姉ちゃんて旅行しに行かへんかあ？？」

コナン

「ずいぶん急だな！俺は別にいいけど蘭は部活あるから無理なんじやねえかな？」

平次

「ほなちよつとあの姉ちゃんに変わってくれへんか？」

コナン

「じゃ、ちよつと待つてろよな！」

コナンは携帯を片手に部屋を出た。

蘭

「あら？コナン君電話誰からだったの？」

コナン

「平次兄ちゃんだよ」なんか蘭姉ちゃんに変わってほしいんだって」

蘭

「服部君が？なんだろ？………はい、もしもし。」

平次

「お！姉ちゃんか？今度俺と和葉と工藤……あの坊主と旅行行こ思
うねんけど、姉ちゃんも行かへん？」

蘭

「え？私部活あるし、お父さんも心配だからいけないわ…。」

平次

「おっちゃんの事は心配せんと、行こうやないけ！部活休みないんか？」

蘭

「金曜日から休みだけど…」

平次

「じゃ決まりやな！ほな俺らは金曜の朝一に東京に着くようにこっち出るから！迎えに来てや」詳しくは金曜教えたる！ほなな！」

平次は一方的に話を進め電話を切った。

第2話

一方大阪では……

和葉

「蘭ちゃん達どうやった？」

平次

「ああ、大丈夫らしいで！金曜出発やからな！」

和葉

「ほんま？やったあゝ」蘭ちゃんに会えるうー！」

平次

「和葉！お前子供ちゃうんやから、ギャーギャーギャーギャー騒ぐな！一緒にいる俺まで子供みたいに思われるやろ！ボケ！！」

和葉

「なによ！久しぶりに蘭ちゃんに会えるんだから、喜んだっていいでしょ！平次の馬鹿！！」

平次

「なつ、あの姉ちゃんに連絡してやったの誰やと思つとんねん！ハゲ！」

とこの二人のいつもの喧嘩は二時間も続いた……。

*****東京（毛利探偵事務所）

蘭

「お父さん、金曜日から服部君達と旅行に行ってくるね」

小五郎

「あゝ行け行け♪おめえらがいねえ方が静かで落ち着くぜ！まあ、
氣い付けて行つてこいや」

昼間からビールを飲みながらテレビを見ている小五郎が言った。

蘭

「もう！いくら仕事がないからって昼間からビール飲まないでよ！」

小五郎

「飲みてえ時に飲むのが一番いいんだよ」

蘭

「もう！……」

コナン

「ハハハ……。」

（駄目だな……この親父……。）

コナンは心の中で思った。

そしていよいよ金曜日がやって来た……………。

蘭

「コナン君、ご飯よ」早くしないと服部君達来ちゃうよ！」

コナン

「はーい！」

そしてコナン達は朝食を終え、服部達を迎えに行った……。

コナン

「あっ！あれじゃない？平次兄ちゃん達？！」

コナンは向こうからやって来るひときわ目立つ朝っぱらから賑やかな二人を指差した。

蘭

「あっ、ホントだ！……和葉ちゃんと服部君やつぱり仲良
いよね。……ねえ、コナン君、新一いつ帰ってくる
のかな……。」

蘭は寂しそうにコナンを見ながら言った。

コナン

「大丈夫だよ♪新一兄ちゃん必ず帰って来るよ♪」

(蘭……………。)

蘭

「……………そうだよね。」

蘭は無理矢理笑顔を作ってコナンに微笑んだ。

第3話

（かならず黒の組織をぶっ潰して元の姿に戻ってやるからな……。それまで待っててくれよな…蘭……。）

平次

「おーい！姉ちゃん～！工藤～！…………やのうて坊主！」

蘭

「服部君、何で毎回コナン君の事工藤って呼ぶの？」

和葉

「せやで！平次！コナン君は工藤君やないんやから！」

平次

「あ、ハハハハ……。この坊主、何処となく工藤に似てるから呼んでまうねん！」

（確かにコナン君って新一に似てる…………。）

蘭 はコナンを見ながら思った。

コナン

「おい！服部！気を付けろよな！」

コナンは服部の耳元で言った。

平次

「おう！悪い悪い！」

蘭

「そついえば旅行って何処行くの？」

平次

「あゝまだ言つてなかったな…。沖縄や！夏言つたら海やろ？海言つたら沖縄やろ？！」

蘭

「沖縄！？ホントにいゝ？行つてみたかつたんだよね！ね？コナン君？」

コナン

「うん♪今年まだ泳いでないから凄い楽しみだな僕♪」

蘭

「だよね♪あつ、でも私、水着持つてきてない…。和葉ちゃん持つてきた？」

和葉

「ウチも持つてきてないで…。平次、ウチにも教えてくれへんかつたんやもん…。向こうで買つたらええやん♪」

蘭

「そつね♪じゃ、早く行きましょ！」

*****そしてコナン御一行は飛行機に乗り、沖縄に向かった…。

飛行機が沖縄に着き……………

平次

「はあーやっと着いたで！」

和葉

「やつぱ沖縄は暑いなあー…。」

蘭

「そうだね東京や大阪と気温全然違うね」

コナン

「平次兄ちゃん！今日何処に泊まるの？」平次

「今日はな、旅館に泊まるんやで！」

蘭

「じゃ、今日は疲れたから旅館に行きましょう？」

和葉

「せやね！水着は明日買いに行こね」蘭

「そうだね」コナン君のも買わないとね」

コナン

「うん」

そしてコナン達は旅館へ向かった。

*****旅館

平次

「ここや！結構立派なトコやろ?!」

和葉

「せやね♪蘭ちゃん、温泉入って来よ?」

蘭

「そうだね！それじゃコナン君、先入って来るわね♪」

コナン

「うん♪行つてらっしゃい♪」

そしてコナンと服部は部屋でくつろぐ事にした。

*****部屋

コナン

「おい！服部！なんで急に旅行なんか……。」

服部

「ああ。気まぐれや」せつかくの休みやしたまにはええかな、思てな！工藤もあの姉ちゃんと思いい出作りたいやろ！？」

服部はイタヅラっぽく笑いながら言った。

コナン

「バーロ！コナンの姿のままじゃ、思い出って言っても限られてくるじゃねえか！」

服部

「ほな元の姿やったらどんな思いい出作るつもりやったんや？！この工口坊主」

コナン

「なっ、そういう意味で言ったんじゃねえよ！」

その頃……。

*****温泉

和葉

「ねえねえ、蘭ちゃん、最近工藤君から連絡ないの？」

蘭

「新一から？ないよ…。事件の調査とかで忙しいんじゃないの？あの推理オタク！」

和葉

「でもよく待ってられるねえ、蘭ちゃん…。ウチやったら絶対無理や……。」

蘭

「まあ、それは人それぞれだと思うよ♪それに最近……コナン君と新一がたまに被って見えるときあるんだよね……。」

和葉

「そうなん؟! そういや、平次、コナン君呼ぶ時、毎回

「工藤」

って呼んでるしね……。まさかコナン君が工藤君な訳ないし……。」

蘭

「でもコナン君の眼鏡取った顔、小さい頃の新一にそっくりなんだよね……。でも仮にコナン君が新一だったとしてもなんでそれを隠す必要があるんだろ……。」

和葉

「そんなに似てるん? ほな、この旅行中に調べてみいひん?」

蘭

「でも……。」

和葉

「蘭ちゃん! 行動あるのみやで!!」

蘭

「うん……。」

和葉

「ほなこの話はまた後でやね♪そろそろ上がる?」

蘭

「そうだね……。」

第4話

蘭

「コナン君、新一なんだよね。もう分かってるんだから……。」
コナン（……………ばれた……………！？）

ジン

「工藤新一……お前は自分の女を危険にさらし、お前がこの女を殺したんだ……………」

蘭

「新一……………」

コナン

「ら……………ん……………」

ドーン……

その場に蘭は倒れ辺り一面には血が飛び散っていた

コナン

「らん……！」

コナンは、布団の上にした。

コナン

「はぁ……はぁ……はぁ……はぁ……。夢か……。少し散歩してくるか……」

(ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ)

蘭の携帯が鳴った。

蘭

「はい、もしもし…。」

蘭は眠気眼で携帯に出た。

蘭

「どちら様ですか？……。」

新一

「おう！蘭…。俺だ…。」

蘭

「新一！？ホントに新一なの！？」

新一

「なんだ？俺の声忘れちゃったのか？」

蘭

「そうじゃないよ…。最近連絡なかったから心配してたんだよ？」

新一

「悪いいな…例の事件が忙しくてな…」

コナンは旅館の公衆電話で蘭に電話していた。

和葉

「早よ朝ならんかなあゝ。蘭ちゃんと早よ泳ぎたいで…!」

ちょうどその時、和葉は二度目の温泉に入り、部屋に戻ろうとしていた…。

和葉

「一日泳いだるゝ!!……………ん?」

その時、誰かの話声が聞こえた。

和葉

「誰やる!?こんな時間に……………」

そして和葉は声のする方へ近付いて行き、コナンが公衆電話で誰かに電話しているのを見た。

和葉

「コナン君？誰に電話してんのやろ？」

蘭

「あまり無理しないでよ？」

新一

「おう！蘭も腹出して寝るんじゃないぞ……。」

和葉

「蘭！？蘭ちゃんに？それにあの声って……？」

蘭

「は、腹なんか出してないわよ！馬鹿……」……新

「……」

新一

「あん？どした？」

蘭

「……………会いたいよ……………早く帰って来てよ……………」

新一

「……………蘭。」

蘭

「……………馬鹿！冗談よ！！何、間に受けてんのよ！体に気を付けるのよ。」

新一

「……………あ、おう！蘭もな！……………じゃ、まだ事件の調査あるから……………また明日のこの時間に電話するからよ……………」

蘭

「うん……………わかった。おやすみ……………新一……………」

新一

「……………じゃな……………」

和葉

「あつ、やばっー！！」

そして和葉は部屋に戻り蘭にこの事を話した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2085b/>

やっぱり……。

2010年10月15日22時19分発行